

支援事例 ケース5

相談者

福岡県福岡市在住 40代 男性 無職 2011年10月から入居

【相談内容】

建築関係の仕事で契約社員として働いてたが、会社が傾き始めた途端にリストラされてしまった。友人や知り合いを頼りに就職活動を始めたが、長期での雇用を考えてくれる就業先が見つからないどころか日雇いの仕事ですら見つからない。現状で蓄えも無い上に体調も悪くなり、通院したいのは山々だが国民健康保険も未加入の状態です。同居していた恋人にも見放されてしまい、死ぬ事も考えたがこのままでは死ぬにも死にきれないとの相談を受けました。

【対応内容】

就労意欲もあり現状を打破したい気持ちはあるが、何もかもが上手くいかない事により自暴自棄に陥っている入居者様に対して、生活保護の申請を行なう事を提案。自身が生活保護を受ける権利があるかを不安に思い区の保護課に出向くことを渋っていたが、入居者様の抱えている様々な悩みを聞き続けることで、「一緒にあれば相談に行く」とご回答頂ける。その後、区の保護課と一緒に出向き、申請時の面談にも同席して保護課の担当者に対して生活の困窮具合を入居者様の立場から細かく説明をし、申請から約2週間程の短期間で生活保護の需給が決定する。

【入居者様の声】

今まで色々な事を乗り越えてきた自信もあり、まさか自分自身がこのような状況に陥るとは思ってもいなかった。**あなたに会って説得されずにひとりで抱え込んでいたら本当に自殺していたかもしれない、出会えた事に感謝しています。**

生活保護受給が決まり通院したところ大腸に病気が見つかりました。治癒にはまだ時間がかかりそうですが、今は無理せず病気を治す事に専念し必ず社会復帰をしてみせます。本当にありがとうございました。